

◇ 光プロジェクト 医学部進学支援特別講座「小論文特別演習」

日 時 ○ 令和4年2月14日(月) 19:00～20:30

○ 3月12日(土) 18:00～19:30

参加者 14名 (2年生7名、1年生7名)

場 所 各生徒の自宅 (オンライン Live 講座)

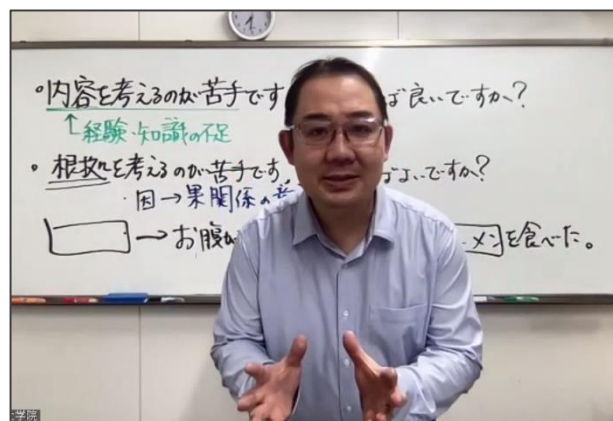
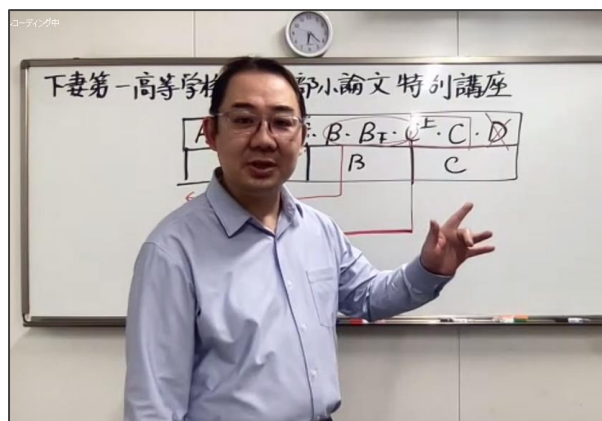
講 師 北村 暁 (きたむら さとし) 先生 (富士学院)



(講義中の北村先生)

👉 今年度も、医学系予備校である「富士学院」東京御茶ノ水校のご協力をいただき、医学系大学の個別試験を想定した小論文の問題演習を実施しました〔オンライン Live (Zoom) にて実施〕。

講師は昨年度同様、北村 暁 先生をお招きしました。先生は、各種予備校での国語および小論文講座や、Z会の「東大国語特訓」などを担当されるなど、豊富な経験を有するエキスパートであり、また小論文だけでなく国語の学習方法講演会でも本校で何度も講座を行っていただいている、いわばお馴染みの先生です。



今回も、第1回 (2/14) の講義を受けて生徒が小論文を作成し、北村先生の添削結果を受け取ってから、それをもとに第2回 (3/12) を行うという形式で実施しました。

オンラインとはいえ、自らに足りない部分を確認・検討し、考えながらの学習を実現することができたのではないのでしょうか。特に第2回は各生徒が添削済みの答案を前にしての受講であり、個別指導に近い形でのご指導をいただくことができました。

北村先生、そして富士学院東京御茶ノ水校の皆様、まことにありがとうございました。

<生徒のアンケートから>

○設問1 「今回の事業への参加は、あなたにとって意義がありましたか。」



- 選択肢 1 12人(85.71%) 大いに意義があった。
- 選択肢 2 2人(14.29%) 意義があった。
- 選択肢 3 0人(0%) どちらともいえない。
- 選択肢 4 0人(0%) あまり意義を感じられなかった。
- 選択肢 5 0人(0%) 意義を感じられなかった。
- 未回答 0人(0%)

○設問2 「今回の事業に参加した感想を簡潔に記してください」

- 設問の意図をどう理解するべきか、小論文の必要性についてよく分かった。
- この前、初めての小論文模試でなかなかの点数を取ってしまったので、今回の講義を聞いて書き方が少しわかった。経験と、周りのものに対するものを疑問を持つことで、より小論文で展開できることを知ったので、ニュースや新聞を読む時間を作り、そのものに接していきたいと思う。
- 医学系の小論文を書くのに何をどう書いたらいいのか分からなかったけれど、演習を受けて医学系の小論文の書き方が分かりました。
- 小論文が苦手です今まで対策をせず『まだ対策しなくていいや』と思っていたが、3年生になる前の忙しい時期に小論文の対策ができてとてもためになったので良かった。北村先生の説明が凄く丁寧で今まで気づかなかったポイントに気づくことが出来た。
- 「弱者に寄り添えるか」、「科学の限界に着目して書く」など、医療系小論文についていろいろなことを知ることができました。
- 去年も参加したのですが、去年の「入試問題に挑戦」のところで出てきた内容は医療に関係のある問題で書きやすかったのですが、今回の問題は「the 医療」と言う問題ではなかったので、今回のような一見

医療に関係なさそうな内容をどう医療と繋げるのか、どう患者さんと医療者と言う立場で見るのかを学ぶことが出来て貴重な経験となりました。ありがとうございました。

- 2回目の参加でしたが、一年目よりも二年目の方が、より深く内容を考えることができるようになりました。ありがとうございました。
- 状況設定で、医療者側と患者側の立場が考えられるという発想は今までなかったです。次から小論文を書くときは、より医療の場面を見据えて書きたいと思いました。
- 初めて本格的に小論文を書いてみて、添削していただいて自分の強みや弱みを知ることができたので、これからは自分でもっと勉強して受験でしっかりと書けるようにしたいと思いました。